2025年9月27日 会報171号	かわち野に吹く風 ～大山崎界隈の文化財探索～	東大阪文化財を学ぶ会 会　長　南　　光　弘

10月24日（金）　雨天決行（荒天中止・警報発令中）

1．集合時間　午前９時30分（時間厳守）受付９時15分～
　※何かあったら　090-83759655（南）　090-20406999（西田）へ　直ぐに対応します
2．集合場所　東海道本線ＪＲ山崎駅改札口付近
3．持　　物　弁当、雨具、飲み物、懐中電灯　など
4．費　　用　参加費　会員無料、一般参加者500円。拝観料200円（宝積寺）
5．行　　程　全行程徒歩約６㎞（少しだけど急坂道有り）

ＪＲ山崎駅→離宮八幡宮→（西国街道）→関大明神・国境碑→（大山崎町歴史資料館・臨時休館中）→観音寺・山崎聖天宮→史跡大山崎瓦窯跡公園（昼食弁当）→（天王山竹林のこみち）→宝積寺・三重塔、十一面観音菩薩立像→アサヒビール大山崎山荘美術館・庭園→（解散予定　午後２時30分頃）

解散後に３コースから選択

① 天王山山頂（標高約270m）に寄って帰路に
② 大山崎山荘美術館から路線バス（JR山崎駅乗車時間７分程度）または、徒歩で帰路に
③ 大山崎山荘美術館（1200円）内の美術品を鑑賞して帰路に

※①コースは、会長、幹事が同道します。
※聴竹居には、今回残念ながら見学できません。11月26日に一般開放があり、ミニ歴探＆サロンを予定
※歴史資料館に、妙喜庵にある利休の「待庵」が復元展示されている。
※雨天の場合、行程を変更します。昼食は各自、駅周辺の食堂を利用してください。
※地図などは、当日参加者に配布します。

≪西国街道と山崎≫

古代は「山陽道」「大路」と呼称され、中世「播磨大道」「播磨大路」。そして、近世は「西国道」と呼ばれた。

山崎は大昔、淀川の対岸の橋本との間に橋が架けられていた。橋の廃絶後、渡し舟の「山崎の渡し」として近世まで重要な役割を果たした。平城京、長岡京、平安京と各地を結ぶ幹線道が通り、天皇家の離宮や山城国府もおかれて官人や貴族、商人が行きかかっていた。また、国境の町として関所が設けられ、宿場町として栄えた。山崎の津（港）は平安京の外港として淀川の水運を利用し都の物流拠点となっていた。

現代では、近くを流れる水無瀬川の伏流水は良質の水とされ、サントリーが明治期にウィスキー工場を建て、名酒「山崎」が生まれた地でもある。

正保摂津国絵図慶安年頃

◎島津家久『京都・伊勢参拝の旅日記』天正３年（1575）４月に

「十五日（略）彦五郎すゝ・焼餅、西の宮の名物とて持参、賞玩仕で打立行は、むこ川とてあり、左方むこ山、しうち山とて有、右方むこの海、猶行てこや（昆陽）の寺まて、甚介いとまこひ、名こりおしミ打過ぬれは、左方こやの池有、亦行て右方に有岡といへる城有、本はいたミ（伊丹）といへる城也、亦左方二池田といへる城有、今はわりて捨られ候、なお行て、せ川といへる郷を打過に候、しゆくの村弥五郎といへるものゝところへ一宿」

「十六日、打立行ハ、右方二いはらき（茨木）といへる城有、それよりあくだ川（芥川）といへるをわたり、亦右方高つき（高槻）といへる城有、さて山崎の井上新兵衛といへるものゝとろ（ところカ）へ一宿」

「十七日、打立行は、ひたりの方二小倉の明神の鳥居有、なお行て右方にしうりう寺（勝龍寺）とて細川兵部大輔殿の城あり、猶行て左方松尾、次に法輪寺、其辺にこかう（小督）の局の居給ひし所とて跡はかり有」
※城や城跡の位置から、ほぼ現在の西国街道と変わらない位置が明確に記されている。

◎『淀川両岸一覧』　（文久元年・1861 刊）　関戸院の旧跡（山崎関戸町の中にあり、古人の和歌多し）
　この大山崎の駅路は、京師九条東寺の西、四ツ塚より西南につづき、桂川久世橋を渉り、向町を歴て山崎に向かひ、関戸院の旧跡に至る。これ関西三十三州の官道にして、文禄年中豊臣秀吉公朝鮮征伐の時闘く所なり。ゆゑに唐街道といふ。古は羅城門[今の四ツ塚の地なり]より南へ官道ありて、久我縄手、淀の大渡りを越えて山崎の橋を渡り、関戸院にいたる。これより南は、芥川・宿河原[今の郡山]瀬川・昆陽より西宮・兵庫・須磨・明石に至るなり。

≪天下分け目の天王山≫
　山城国と摂津国の国境に位置する標高約 270mの山。麓に京と西国を結ぶ街道や淀川があるこの地は、古くから戦略上の要衝。勝敗の分岐点を意味する「天王山」は、この地で起こった山崎合戦から生まれ言葉。その「天王山」は、天王山八合目に鎮座する大山崎の氏神、かつては天神八王子社と呼ばれた酒解神社の祭神・牛頭天王からきている。
　2011 年に、火縄銃の玉や、兵が駐屯するために古墳を平らに整形した曲輪の跡や幅 4～5m、深さ約 2mで、49mにわたる堀跡が確認されている。堀の形状も全国の陣城の事例と似ており、遺物が少ないのも急ごしらえで造る陣城の特徴。平野部にぽつんとある恵解山古墳は戦略上も陣地を置くのに適している。堀が東西にも伸びて古墳を囲んでいた可能性もあるという。
　山頂の山崎城跡までに、旗立て松・展望台、十七烈士の墓、酒解（さかとけ）神社・神輿庫、がある。

①　離宮八幡宮　宮司さんのお話があります
　祭神は、応神天皇、神功皇后、宗像姫三神（田心姫命・市杵島姫命・端津姫命）、酒解大神（又は大山祇命）
　貞観元年（859）、清和天皇の時代、国家鎮護のため八幡神を京の都近くに移座するという勅命の下、豊前国の宇佐八幡宮より山崎に遷座されたことに由来しているという。
　実は、宇佐八幡宮から帰郷した僧行教が山崎津で夜の山に霊光を見たこの地を掘ると、岩間に清水が湧出したので国家鎮護のために「石清水」の八幡宮を創建したという。清和天皇の夢の御告げもあり、「勅命」による建立となった。
　鎮座後は対岸の男山にも分祀され、以後は男山のほうが「石清水八幡宮」と称されるようになり、嵯峨天皇の河陽離宮（かやりきゅう）の故址にあることから「離宮八幡宮」と称した。

　朝廷の崇敬も深く、時々の祭典には特に勅旨を遣わして奉幣を給付されていた。武家の世の中になってからは、神領を 930 余石、守護不入の地と定められ、将軍足利義満～徳川歴代将軍に至るまで数々の教書並びに朱印状を受け、その多くが国の重要文化財に指定されている。(『大山崎離宮八幡宮文書』)。
　幕末の「禁門の変」では長州藩屯所となったために兵火で焼失したが、「西の日光」と言われる程の宏壮優美な社殿を構えていた。
　淀川沿いに建てられていた大鳥居の額「離宮八幡」の文字は、風格絶佳なる其の名筆で「三蹟」と称えられる藤原行成の手になるという。

≪建造物≫

現在の本殿、拝殿、透塀、高天宮神社、中門、手水所は、昭和初期の建築で、中世風の復古的な意匠でまとめられている点を高く評価され、平成 25 年 12 月に、国の有形文化財に登録されている。

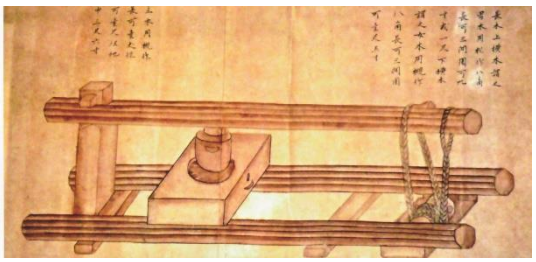
大山崎油神人

≪油祖像≫寺社の雑役や力仕事をする神人（じにん）の像

平安時代、離宮八幡宮の神官が神勅をうけて「長木」という油しぼり道具を創案した。これによって神前に捧げる灯明の原料である荏胡麻油を大量に絞ることができるようになり、朝廷より「油司（あぶらつかさ）」を拝命し、また、油座として荏胡麻油製造の長とされた。

交通至便な大山崎で生産された良質な油は、油神人によって京の都を中心に各地に販路を伸ばし、鎌倉時代になると大山崎の油神人は荏胡麻油の生産と販売について優先権をもつようになった。彼らは全国一の油商として各地との交易も行ない、大山崎の繁栄を拡大していった。

室町時代になると、幕府にとって重要な神社である八幡宮への奉仕が評価され、守護など権力者の干渉をうけない「自治」の町として足利将軍から認可された。



境内には「本邦製油發祥地」の碑や「全国油脂販売店標」があり、多くの油脂業者の信仰を集めている。 社務所では荏胡麻（えごま）油、油断大敵のお守りも販売されている。

なお、戦国時代、「美濃の蝮」こと斎藤道三は、ここ山崎の油商人となって富を築き出世の足掛かりとしたという。

≪腰掛天神社の横の菅原道真腰掛け石≫座れば学業成就

右大臣となった菅原道真に対して、左大臣藤原時平の策略により、太宰府へと左遷された。菅原道真が、西国街道脇の石に座って休息し和歌を詠んだという。その和歌が

「君が住む　宿の梢を　ゆくゆくと　隠るるまでも　返り見しはや」

≪自玉手祭来酒解神社（たまでよりまつりきたる　さかとけじんじや）≫

創建の由緒は不詳。しかし、養老元年（717）建立の検札があることから奈良時代の創建とみられている。

旧名を山埼社といい、平安時代の延喜式神名帳には「山城国乙訓郡自玉手祭来酒解神社元名山埼社」と記載され、官幣名神大社に列し、月次、新賞の幣帛に預ると記されている。

天王山山頂より約 100m 程下ったところに位置し、本殿の手前に建つ神輿庫は鎌倉時代の建築で日本にある板倉式倉庫としては最古のものであり、国の重要文化財に指定されている。本殿は国の登録文化財。

５月３、４日に行われる神輿渡御の祭礼（町内の巡行は隔年実施）は、藤原定家が平安時代に山崎の街道で見た辻祭を継ぐものと考えられている。（『明月記』建仁２年（1202）４月の条）。

② 関大明神

国境の関所もしくは、関所の跡地に設けられた関戸院（公設の宿泊施設）に付属した鎮守社との説などが有る。創建などは不詳。（本殿は覆屋の内。）

③ 観音寺・山崎聖天宮

真言宗系単立の寺院。山号は妙音山。本尊は十一面千手観音。正式の寺号は観音寺である。歓喜天（聖天）が祀られており、山崎聖天の通称で信仰を集めている。

平安時代に宇多天皇の勅願で開山されている。その後、江戸時代に摂津国勝尾寺の僧・木食以空が、この地にあった聖徳太子の作と伝えられる十一面千手観音を本尊とし、再興され堂塔を整えた。木食以空は摂津高槻藩の第２代藩主、出羽国上山城の城主・土岐頼行の庶子という。

本堂横の聖天堂には、歓喜天（聖天）が祀られており、霊元天皇、東山天皇、中御門天皇の篤い帰依を受けたほか、商売繁盛・家運隆昌を願う住友家、三井家、鴻池家などを始めとする京都、大坂、堺の商人達の信仰を受けて大いに発展した。また、当寺の名称は観音寺であるが、聖天の方が有名になってしまい、「山崎の聖天」と呼ばれるようになった。

幕末、元治元　（1864）年に起こった禁門の変で尊皇攘夷派の真木保臣を始めとする十七烈士らが天王山に陣地を置いたために幕府軍の攻撃に巻き込まれ、避難させていた本尊の十一面千手観音像と歓喜天像、土蔵を残して全焼した。

明治時代になって伽藍が復興した。境内の鐘楼は、西観音寺の鐘楼を明治 13 年（1880）に移築したもの。梵鐘は江戸幕府第５代将軍徳川綱吉の母・桂昌院による寄進。また、青銅製の大灯篭は元禄 10 年（1697）に住友吉左衛門友信により寄進されたもの。

④　宝積寺（ほうしゃくじ）　宝積寺は通称「宝寺」、真言宗智山派智積院の末寺

養老７年（723）、聖武天皇が文武天皇の太子の頃、夢に龍神が現れ打出と小槌をつかわされ 75 日にして元正天皇の譲位をうけて神亀元年（724）２月４日、天皇に即位した。その後、行基菩薩に勅命し、天王山の中腹に伽藍を建立し打出と小槌をご神器として奉納した。

当寺の本尊は十一面観音菩薩で、その昔、大洪水で山崎の橋が流出し民衆が途方にくれている時にどこからともなく一人の翁が現れて水面を自由に歩き、見事橋を復元された後に山に上り、当寺本堂の厨子に入られたという伝えがあり、橋架観音とも呼ばれた。小槌宮の本尊、大黒天は財福、繁栄、増進の神様と崇敬されている。

境内の三重搭が重要文化財、本堂及び山門は京都府の登録文化財に指定されている。また、美術工芸品では本堂内安置の本尊十一面観音菩薩立像、仁王門の金剛力士像及び収蔵庫に安置される閻魔王と誉族像が重要文化財に指定されている。どの仏像も鎌倉時代の作品で優美で躍動感に溢れている。特に閻魔王と巻族像は見る者を圧倒する迫力があり必見。

桃山時代建立の秀吉「一夜の塔」（三重塔）

⑤　アサヒビール大山崎山荘美術館

関西で活躍した実業家の加賀正太郎が、大正・昭和初期に建築した英国風邸宅を改修し平成８年に美術館として開館している。初代社長山本霜三郎が支援していた河井寛次郎や湯田庄司、バーナード・リーチ等の民芸連動の旗手たちのコレクションを本館に、アサヒグループが所蔵しているフランス近代絵画印象派の巨匠モネの睡蓮などを新しく建築した安藤忠雄氏設計の「地中の宝石箱」に展示している。

当美術館は美術品、庭園、景観、建築と季節毎に楽しめる心癒される空間です

≪番外　山崎城跡≫

大阪平野から京都盆地に入る関門を成す標高 270.4m の天王山。

今日残る城跡は、羽柴（豊臣）秀吉が天正 10（1582）年６月に起こった山崎合戦の直後に築城したもので、天下統一の出発点になった城。山頂付近一帯には天守台跡、門跡、井戸跡、土塁跡、礎石等が残っている。

≪お知らせ≫　次回歴史探訪「紅葉の湖東三山を巡るバスの旅」11 月 28 日（金）　集合 ８時、商工会議所前

銅鐸博物館（野洲）、鏡神社、多賀大社、西明寺（犬上郡甲良町）、金剛輪寺（愛知郡）百済寺、永源寺（東近江市）を予定。大型バスを利用の予定。定員になれば受付終了とします。費用は未定、できるだけ安くします。

申込受付は、会報、第 172 号の発行日（11 月１日を予定）より開始します。

e-mail　minamifx56a1212@dune.ocn.ne.jp　携帯 090-83759655。また FAX、0667772137

☆歴史文化講座　多利思北孤の宮都　～筑紫倭国の中枢部に君臨した「日出処天子」～

10 月25 日（土）　13 時 30 分～ 商大、多目的室　　講師 清水 守民（古代ペンタクロス研究所）